

平成27年度 平成28年度

決 算 ・ 予 算

〔速報版〕

平成28年6月

箕面都市開発株式会社

平成27年度決算の概要

1 平成27年度予算と決算を比較すると

- 予算編成時及び上半期決算時の見通しに比べ、売上高は増加し、営業利益、経常利益、当期純利益とも、**予算を大きく上回り、経営は順調**です。

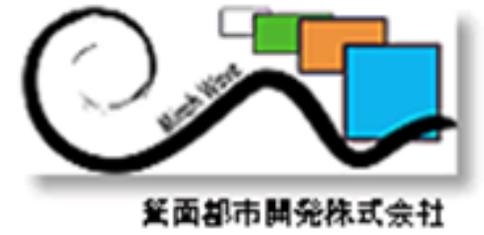
2 調停条項と比較すると

- 期末資金残高について、**調停条項の想定推移を大きく上回りました**。
- 純資産額については、平成24年度に債務超過を解消し、繰延税金資産^(※1)を除いても、**大幅に増加**しています。
- いずれの利益ベース(営業利益・経常利益・当期純利益)においても、**調停条項を大幅に上回りました**。

(※1):繰延税金資産とは…将来の会計期間に帰属すべき税金費用(損金)を当期に前払いしたと考え、これを繰り延べ処理することにより生じる資産のことをいいます。

3 今後の展望

- いずれの利益ベースにおいても、調停条項や平成27年度予算に比べ大幅に上回る順調な経営となっています。これは新規駐車場事業の受託及び所有床賃貸料収入の増加によるものです。
- 今年度は、新規事業獲得に注力したことにより、長期にわたる安定収益事業を確保することができました。引き続き、**キャッシュフロー安定化のための経営努力**を行います。



平成27年度

決算

1. 平成27年度決算

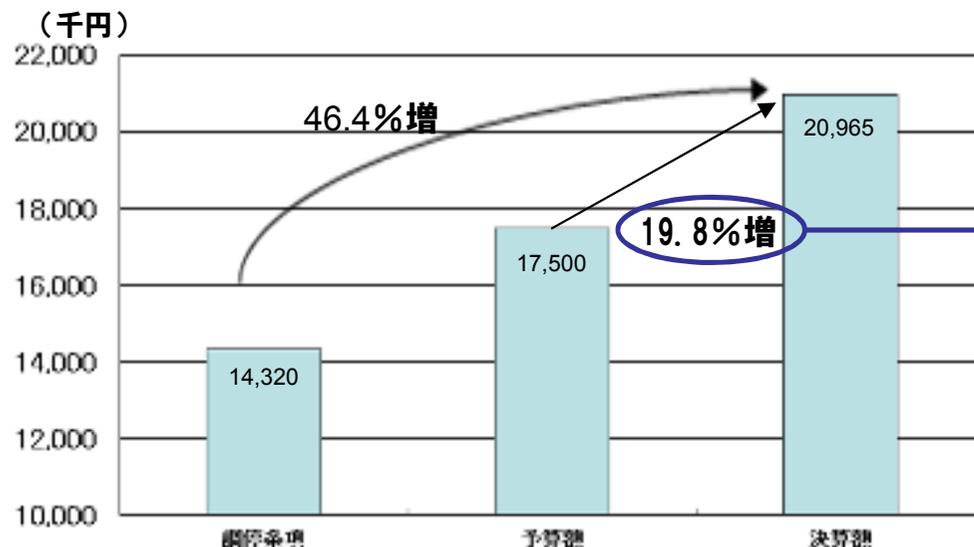
(単位:千円・%)

	平成27年度実績			平成27年度決算の比較			
	調停条項	予算額	決算額	予算との比較		調停条項との比較	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	108,000	120,000	122,410	2,410	2.0	14,410	13.3
営業利益	14,320	17,500	20,965	3,465	19.8	6,645	46.4
経常利益	12,460	15,501	18,684	3,183	20.5	6,224	50.0
当期純利益(※)	6,089	7,835	10,076	2,241	28.6	3,987	65.5
期末資金残高	86,170	95,013	101,329	6,316	6.6	15,159	17.6
純資産額	15,789	28,210	30,451	2,241	7.9	14,662	92.9

(※)法人税等調整額を除いています。

法人税等調整額とは・・・税務上の益金、損金で算定される課税所得と企業会計上の収益、費用で算定される利益との差額を調整する会計処理のことをいいます。

2. 営業利益（本業利益）の比較



決算においては、すべての項目において、調停条項を大幅に上回りました。

要因

駐車場受託事業の開始、人件費や外注費等の費用削減に努めたことが大きな要因です。

3.貸借対照表

(単位:千円・%)

	平成26年度		平成27年度		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
資産合計	514,131	100.0	524,386	100.0	10,255
流動資産	105,768	20.6	109,597	20.9	3,829
固定資産	408,363	79.4	414,789	79.1	6,426
有形固定資産	374,209	91.6	375,707	90.6	1,498
無形固定資産	296	0.1	296	0.1	0
投資その他の資産	33,858	8.3	38,786	9.3	4,928
負債合計	468,753	91.2	464,004	88.5	▲4,749
流動負債	26,258	5.6	29,241	6.3	2,983
固定負債	442,495	94.4	434,763	93.7	▲7,732
純資産	45,378	8.8	60,382	11.5	15,004
純資産(繰延税金資産除く)	20,375	—	30,451	—	10,076

平成27年度の業績が好調だったため、**流動資産が増加**しました。

弁済計画に基づき、平成27年度分を箕面市へ返済したため、**固定負債が減少**しました。

参考1：経営内容を判断するポイント

■会社の経営状況は期間損益の状況を見るだけではなく、資金計画を見ることで経営状況を判断できます。

★調停条項の着実な履行を判断するポイント

- ① 期末にどれだけの資金残高があるのか
- ② 純資産額(貸借対照表の資産合計－負債合計)による判断

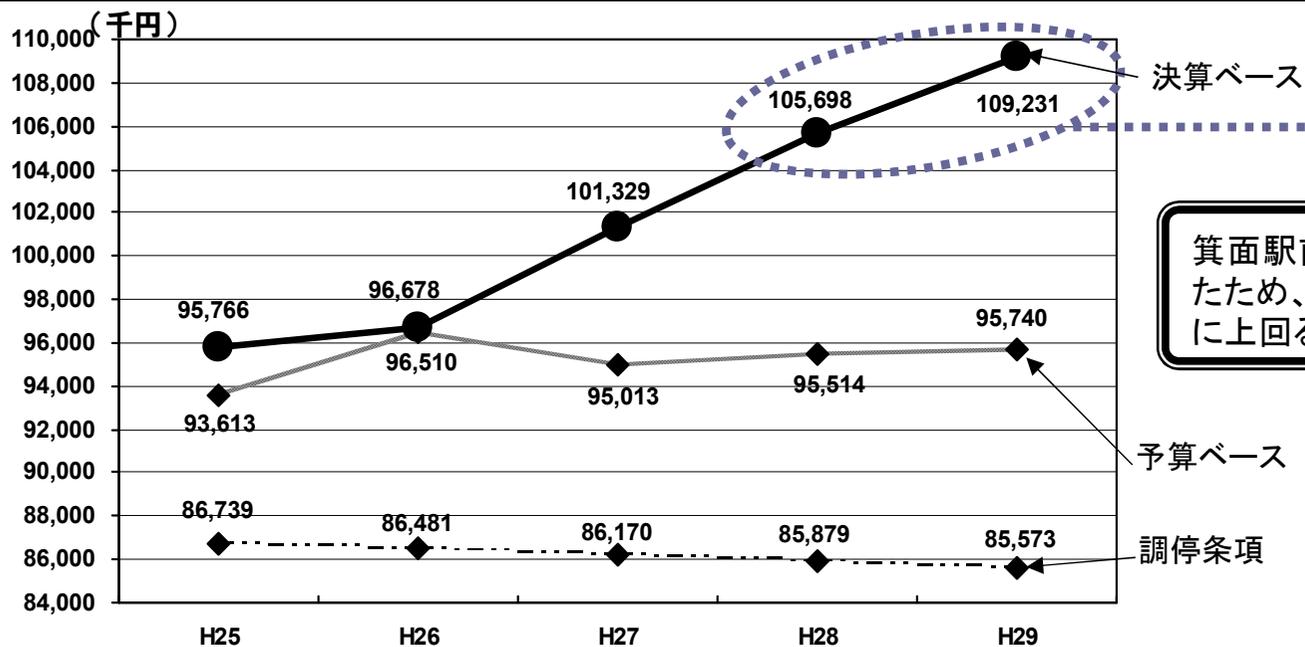
.....→ **資金計画で判断することが適切**

参考2：資金計画の見込み

(1) 期末資金残高の推移

(単位:千円)

	各年度の予算・決算実績			平成27年度からの予測	
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
調停条項	86,739	86,481	86,170	85,879	85,573
予算ベース	93,613	96,510	95,013	95,514	95,740
決算ベース	95,766	96,678	101,329	105,698	109,231



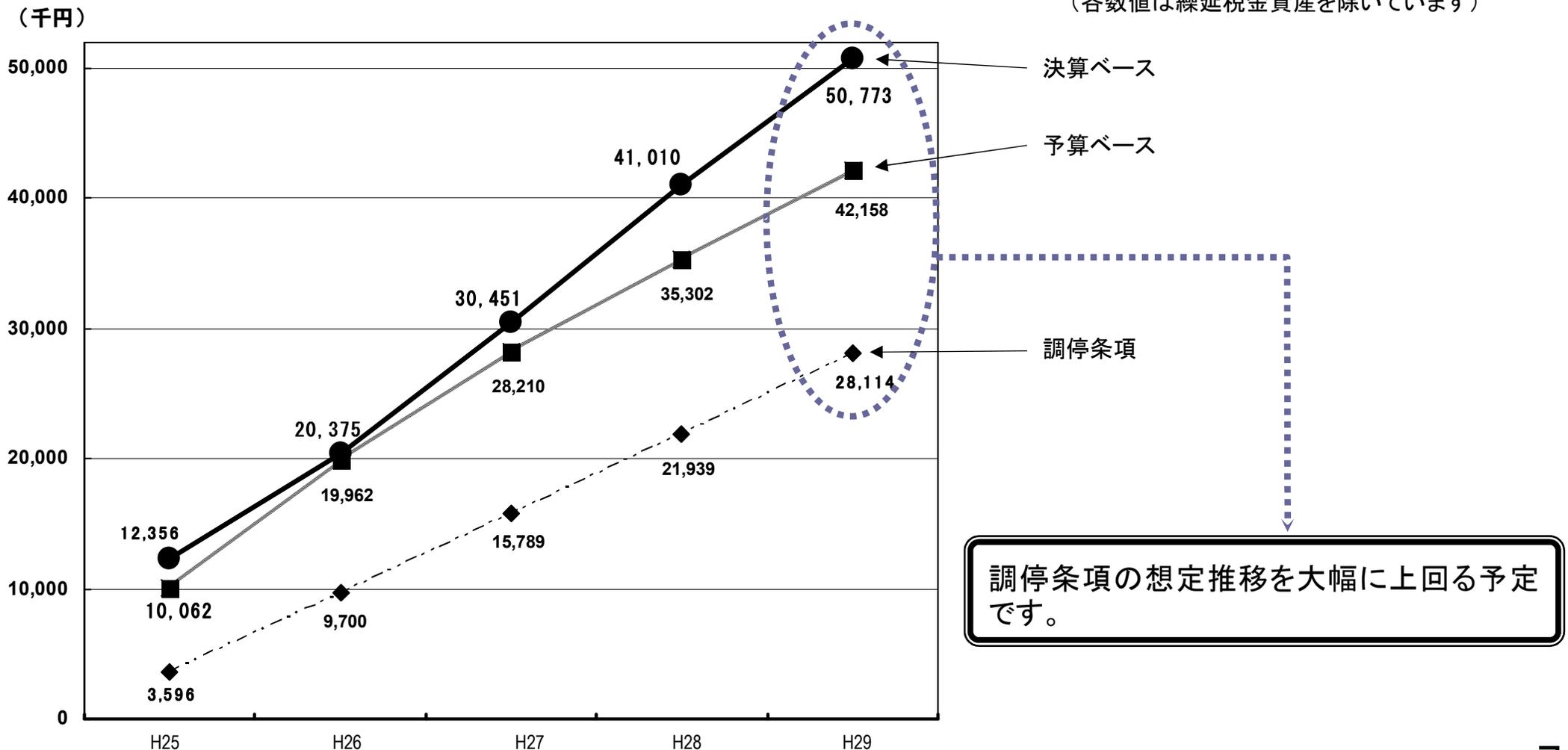
箕面駅前駐車場・駐輪場の収益事業を資金計画に反映させたため、期末資金残高が増加し、調停条項の想定推移を大幅に上回る予定です。

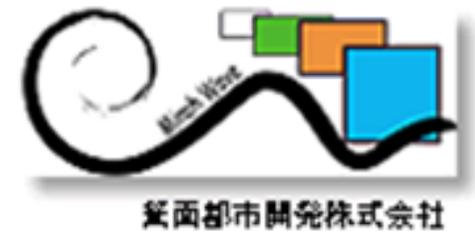
(2) 純資産額の推移

(単位:千円)

	各年度の予算・決算実績			平成27年度からの予測	
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
調停条項	3,596	9,700	15,789	21,939	28,114
予算ベース	10,062	19,962	28,210	35,302	42,158
決算ベース	12,356	20,375	30,451	41,010	50,773

(各数値は繰延税金資産を除いています)





平成28年度

予 算

1. 平成28年度予算と調停条項

(単位:千円・%)

	調停条項 (平成29年3月期)		平成27年度 予算		平成28年度 予算		平成28年度予算の比較	
	金額	売上高 利益率	金額	売上高 利益率	金額	売上高 利益率	調停条項との 増減率	平成27年度 予算との増減率
売上高	106,880	—	120,000	—	128,000	—	19.8	6.7
受託料収入	64,647	—	73,280	—	79,380	—	22.8	8.3
所有床賃貸収入	6,907	—	7,152	—	8,971	—	29.9	25.4
土地賃貸収入	23,640	—	22,348	—	22,129	—	▲6.4	▲1.0
受取手数料収入	2,296	—	2,420	—	2,620	—	14.1	8.3
文化・交流C売上	9,390	—	14,800	—	14,900	—	58.7	0.7
営業利益	14,380	13.5	17,500	14.6	21,500	16.8	49.5	22.9
経常利益	12,559	11.8	15,501	12.9	19,540	15.3	55.6	26.1
当期純利益	—	—	—	—	—	—	—	—
当期純利益 (法人税等調整額除く)	6,149	5.8	7,835	6.5	10,559	8.2	71.7	34.8

2. 売上高・利益ベースの推移

- ・平成27年度決算において、各利益ベースとも平成27年度予算を上回りました。
- ・平成28年度予算において、平成27年度決算と比較すると、売上高、営業利益、経常利益・当期純利益ともに上回る見込みです。新規事業（箕面駅前第一駐車場・駐輪場の受託業務）の開始に加え、不動産賃料の増加による売上増加が大きな要因です。
- ・これにより、経営内容の判断指標である期末資金残高や純資産額は、順調に推移する予定です。（6・7頁参照）

■売上高

(単位:千円)



■営業利益



■経常利益



■当期純利益



H27予算とH28予算の比較・主な要因

前年比6.7%増

- 第一駐車場・駐輪場事業の開始と所有床の賃貸料収入の増加による

前年比22.9%増

- 売上高の増加による

前年比26.1%増

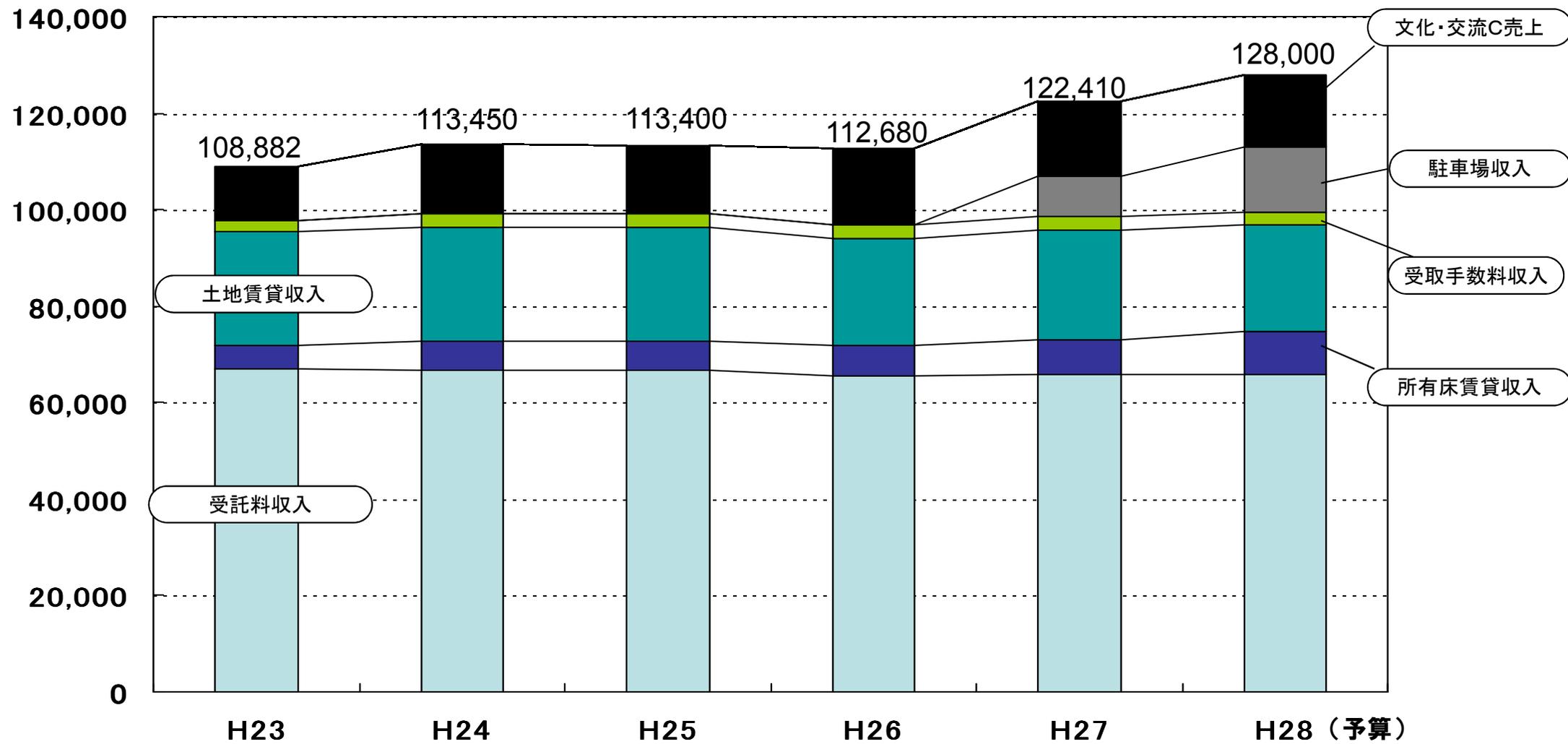
- 営業利益の増益による

前年比34.8%増

- 経常利益の増益による

参考1：事業別売上高の推移

(千円)



参考2：売上高増減の主な要因

